



セクシュアルマイノリティボランティアサークル



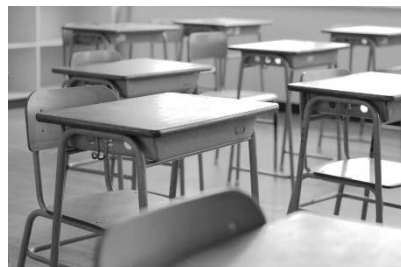
URL <http://gochamazetamago.main.jp/>
E-mail gochamazetamago@yahoo.co.jp

11/11(土)アピオあおもり秋まつり参加企画

性的マイノリティ ～多様な「私」のいる教室～

今年度も、青森県男女共同参画センター・青森県子ども家庭支援センター「アピオあおもり」で開催されるパートナーセッション、「アピオあおもり秋まつり」に出展させていただきます！

午前は授業風、午後は放課後風に開催します。みなさま是非ご参加くださいね☆



■日程:11/11(土) ※時間帯は下記参照

■場所:アピオあおもり(青森市中央3丁目17-1) 2F 小研修室3 ■定員:22名

■内容:

☆午前の部 10:00～11:30

ホームルーム…スクランブルエッグについて

1時限目…セクシュアリティの解説

2時限目…メンバーによるトーク

質疑応答

☆午後の部 13:00～15:00

IDAHOメッセージ展

機関紙、パンフレット、本などの展示

フリーテーマで自由に交流

※自由に入退きいただけます

7/8「多様な性にYES! IDAHOメッセージ展」は無事終了しました☆



今回、映画祭・メッセージ展やセクマイ関連のイベントへの参加自体が初めての経験で、スクランブルエッグに参加するまでは完全にクローゼットとして暮らしてきた私としては、果たしてどれだけの方がセクマイに関心をもって会場に足を運んでくださるだろうかと、密かに不安に思っていました。

しかし、蓋を開けてみれば、実に多くの方に映画祭・メッセージ展へご来場いただき、とても驚きました。そして、セクマイに関心を寄せる人が多くいることを知り、大変うれしく思いました。

これからも、セクマイがより身近に生きる存在として捉えられ、マジョリティとマイノリティという垣根のない社会になっていくことを切に願います。(まる)

ここで生きる ～多様な“性”と“生”～

今回は引き続き、青森県内にお住まいのレズビアンカップルさんへのインタビュー。前回ご紹介したNさんのパートナー・Mさんは、3年の遠距離恋愛を経て東京から青森にお引越されました☆

一 青森に引越すと決めた時、結構悩みました？

悩みましたね～。まず、家族にカミングアウトしなくちゃいけないっていうこと。大阪とか沖縄とかならごまかせそうだけど…え、何で青森？って(笑)やっぱり、ごまかしては行けないってのがありました。第一がそれでした。

あとはお仕事。東京でやってたのと同じ職種でも、時給も安いし、時間も短い。移動も、免許を持っていないので、今までと同じ仕事では無理だなって。



一 それでも、来たと(笑)

来ちゃった、来ちゃった(笑)
ダメだったら戻ろう、ぐらいで。親もいずれ要介護みたいになると、離れられない。もし試すんだったら今、と思って…ちょっと頑張りました(笑)

一 お母様へのカミングアウトは、難しそうなお雰囲気だったんでしょうか？

私が読んでた女性同士の登場する純粋な小説を、何かで母親が見つくて、「何これ？」ってなったことがあるんです。私はその時ごまかさなかったんです。

それまで、お付き合いしてる女性をお友達ってことにして、母と一緒にランチしたりとかもあったんです。私はどちらかというと中性的な感じの人が好きなので、母親的に「ん？」と思ったようで。交流があった人たちと小説のことがつながって、あ～そういうことか、みたいな。

母は人権の問題とかも結構関心ある人だったので、そこまで嫌がらないかなって私は思ってたし、ひた隠しにしないきゃいけないとまでは考えていなかったんです。「なんか言ってきたら言っちゃおっかな」って感じで。けどその小説が見つかった時に、「あんたやめてよね」とか「孫の顔が見たい」みたいなことを言われて…結構、普通を望んでるのかな～と。私が結婚してたこともあったからかもしれないけど、思ってたよりもすごい拒絶反応があったんです。それから、同性とお付き合いする時には隠さなく

ちやいけないのかなって思うようになりました。

この小説事件があったので、いざカミングアウトをしなきゃいけないってなった時は、すごく怖かったですね。私は親が母だけなので、母を一人残して行くっていう罪悪感もあったし…。

一 そんな中で、どんな風にカミングアウトを？

直に「実は…」って感じじゃなくて、仙台のビアンのお友達の結婚式に泊まりがけで出かける時に、お手紙と、同性愛のことがわかる本や、母が好きな作家さんが同性愛への理解に触れている文章や、カミングアウトによって母が孤立しない為の親の会的な連絡先を置いてきて。

そしたら結婚式が終わった後に向こうから電話がかかってきて「なあに、これ」って。結構その時は、すごい反発してる感じだったんですよ。

一 それ、帰るの怖くないですか？(汗)

怖かったけど…帰らないわけにもいかないし(笑)次の年にはもう青森に行くくらいの気持ちでやっていました。言わなきゃいけない、どうしよう、っていう時に、お友達が結婚式をする。しかもビアンとして、親戚呼んでするんだよ、っていうのは、家を一旦離れる機会をくれたし、力になったのもありますね。

家に帰った瞬間とかはよく覚えてなくて、こう断片的に、記憶が飛んで(笑)覚えてるのは…沈黙？あと、なんかのタイミングで…Nに手紙を書くとか、何か言ってやる、みたいなことを言い出した時があって、それを聞いて私が激怒して、掃除機を壊した、っていう…(笑)掃除機かけて、そういう話になって、はあ～？！みたいな感じでバーン！って(笑)

一 笑ってるけど、結構な修羅場ですよ？！(笑)

冷静に話すと、セクシュアリティの話は一切なくて、もっと感情的？だったと思う、親も私も。



今もそうかも。ただ、まあこうしてこっちにいられてるし、時々電話で普通に話し、向こうが旅行に行った時にお土産よって行って、大きいカステラがきたり(笑)お二人でどうぞとは決して言わないんだけど(笑)こっちのお祭りの話とかすると、親は旅行好きなので、ふ～ん、いいな～とか。来たらしいよ～とかしゃべったりすることもありますね。

一 いよいよ青森に引っ越してきた時に、これは予想以上だったわ～、みたいなことってありました？

覚悟はしてたけど、交通の便が…。そうかな～って想像はしてても、実際それで生活しようとすると、買い物とか働くこととか、ちょっとした日常の自分の行動範囲は限られてしまいます。

東京にいと、多くのものがあってその気になれば、大いに与えて貰うことができます。でもこちらでは、少ないものの中で、与えて貰うより見出さないといけなくなりました。

ほかに、方言を聞くだけで疎外感を感じてしまう、それが意外にストレスでした。

東京には友人や親との関係、ライフワークと並行できる仕事がありました。友人や親との関係はありがたいことに離れても良好ですが、ライフワークをメインにすると、生活していきることができません。



疎外感とは、全てを東京に置いてきたという喪失感というより、私は何者なの？って、私は何がここでできるの？といううものだったのだと思います。

一 逆に、こちらに来て、こういうところはいいな、好きだな、と思ったところありますか？

文化が根付いていてお祭りも大々的なことはホント素晴らしいですね。そして自然！氷水みたいに冷たくて透き通った海も、山々も近くて美しいこと、白鳥が鳴きながら飛んでいて可愛いかった。

日常では産直の美味しいお野菜に驚いたり、その人達に話しかけられるのが楽しかったり、朝市やらオシャレなイベントまでがあって面白い人たちがいること、お気に

入りのカフェがあること、休日の庭いじりが結構面白いという発見。



でも何より良かったなって思うのは、本当にささやかな幸せと一緒に感じる事ができたということ。

東京では可能だった生活が、ライフワークをしながらでは、地方は資格なり免許なりがなければ生活は難しい。しかも私たちには何も法的保障はされていない。

それでも帰らない理由は、ささやかな幸せが、ここにあったからなんですね。

一 最後に、今後こういう風になつたらいいな、と思うことはありますか？

すごく私的なことだけど、Nさんと母親とか、今の当たり障りない感じからもう少し踏み込んだ関係になれたらいいな、と思いますね。誰にでも起こりうる老いや病気の時って気持ちが弱るじゃないですか。そんな時だからこそ同性愛だとかそんなことは置いて、人と人として近づきたいんです。

あとは社会的なこと、異性愛の人たちと同じように認められたらいいな～と思いますね。制度的なことがしっかりしてくれば、私も安心して生活できるし、親の「うちの子たちは異質だから人権がなくて当然なんだわ」みたいな変な負い目も降ろしてあげられる。

こうして青森での生活をして得たものは、何があっても何処にいても生きていける力を持ちたいと思えること。資格や免許も良いのですが、人間力…人と繋がっていきける力をつけたいです。

妄想力は持ち過ぎなくらいあるんです。そういったものを面白い人達と語って仲間とひとつでもふたつでも、実現できるようになりたい。LGBTに限らず、多様な人、多様な生き方が肯定されるような社会のカケラの一つを創りだせたなら最高です。



Mさん、お話を聞かせていただき、ありがとうございました！

簡単ではない道のりでも、パートナーのNさんと一緒に歩むMさん。その言葉から、Nさんとの暮らしの一コマ一コマを、とても大切にしている思いが伝わってきました。

Nさん、Mさん、二度にわたるインタビューにご協力いただき、本当にありがとうございました(*^^*) (創)

そして<彼>は<彼女>になった

～安富教授と困った仲間たち

細川貂々 / 集英社インターナショナル / 2016年



女性装の東大教授の安富先生はいかにして誕生したのか？安富歩先生は、息苦しい家族関係から抜け出した後、自分の心の内側に封印された何かがあることに気づく。それは、自分の中にずっと小さな女の子を閉じ込めていたこと。

それぞれの苦しい<家族>というものから抜け出すために一緒に戦った「ふうちゃん」とお互いに支え合いながら、自分自身の人生を生きるために試行錯誤を続けていく姿が描かれている作品です。

(しーも)

SMASH HIT!

Human Library @ 弘前大学 2017

11/25 (土) 午後開催!!

様々なマイノリティの方や、地域で活動している方などが「生きている本」になって、体験や思いなどをお話します。

講演会も同時開催！是非お越しください(*^^*)

■日時：2017年11月25日(土)13:00～17:00(開場12:30)

■場所：弘前大学文京町キャンパス(弘前市文京町1)

総合教育棟 306講義室(受付)

■主催：Human Library

@弘前大学2017実行委員会

E-mail:hirosakidaihl@gmail.com

Twitter&Facebook:hirosakidaihl

■共催：弘前大学人文社会科学部、スクランブルエッグ

■後援：弘前市、弘前市教育委員会



☆☆☆メルマガ登録受付中!!☆☆☆

スクランブルエッグでは、メールマガジンを時々発行しています！登録は無料です(^-^)

「無理せず楽しく、自分達の生活を大事にしながら、できることをしてみよう！」というのがモットーの当たまご。イベント自体は年に2～3回程度ですが、開催のお知らせのメール等を配信させていただく予定です。

登録ご希望の方は、件名に「メルマガ希望」と入れて、gochamazetamago@yahoo.co.jp までご連絡ください！

LGBT”とビジネス、光と影

ここ1～2年のことだと思うのですが、Twitterでよく謎のフォローをされます。プロフィールを見ると、「FtMです！副業でめっちゃ稼いでます！気になる方はDMください」とか書いていたり…。

以前は、セクマイがメディアに取り上げられるのは笑いのネタであることが多かったのですが、この頃はニュースや特番、ドラマでも“LGBT”が登場し、行政や企業の取り組み事例もどんどん紹介されています。

その一方で、「電話だけで性同一性障害(GID)の診断がとれる」「副業で稼げる」「人権講師になれる」など…GID専門医に相談しづらい地方の当事者や、生活や将来に不安を感じているセクマイの人をターゲットにした「おいしい話」が、インターネットを中心に次から次へと発信されています。高額なセミナーに関するニュースも少し前に話題になりました。



これらが全て間違った情報とは限りませんが、GIDの治療で十分な説明がなく体調を崩してしまったり、詐欺やマルチ商法で被害を受けた例もあります。

場合によっては、今後の人生を大きく左右すること。「おいしい話」はないと思って、インターネットでよく調べたり、相談電話や信頼できる相手に相談するようにしましょう。商品やサービスを利用する時は、メリットだけでなく、デメリットやリスクなど含めて色々な角度から判断することが大切だと思います。(創)

【にじたまの主な設置場所】

青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」／青森市民図書館／青森市男女共同参画プラザ「カダール」／弘前市立図書館／弘前市民参画センター／弘前大学／FMアップルウェーブ／藤崎町ふれあい館／スポカルイン黒石／五所川原市立図書館／八戸市立図書館／八戸市図書館情報センター／八戸市市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいく」／十和田市市民図書館／三沢市公会堂／むつ市立図書館 ※平川市文化センターは工事のため閉鎖中